

大阪にて

倉 橋 生

○大阪市西區保育會主催の幼稚園教育講習會が九月三日から一週間同區靱小學校を會場として開かれた。大阪市内各幼稚園の保母諸君、それに神戸、京都、堺、明石、近江等の保母諸君を併せて二百に近い熱心なる諸君の日の出席は、太だてに盛といはなければならぬ。殊に市視學諸君、小學校長諸君、その他直接幼稚園當事者でない諸君が特に此の問題に興味を以て多數臨席せられたことは、此の種の講習會としては特筆すべきことであらう。以て大阪市保育界の熱心を見るべきである。たゞ其の熱心に對して講師たる余が何程の貢獻をなし得たかは頗る疑はしい。

○講習は保母諸君の午前中の勤務時間を避けて、午後一時半から開かれた。そこで其の午前中の利用して、毎日市内各幼稚園の參觀をした。尤も夏季中の短い保育時間のこと故、ゆつくりした參觀も出来ない。一園の保育を拜見して、他は遊園や園舎の設備を拜見するといふ風に、一日に多きは四回も參觀をした。随分大急ぎの走馬燈式參觀といはなければならぬ。従つて一つ々々の園から詳細な印象を得ることの出来なかつたのは残念でもあり又各園に對しては失禮たらざるを得なかつた。併し斯ういふ參觀によつて、漠とながら『大阪の幼稚園』の何ものかを概観し得たことは幸であつた。但し『大阪の幼稚園』の總數中參觀したのは約半數(靱本田、日吉、高臺、東江、西六、江戸堀、愛珠、船場、汎愛、靱大江、敬英、御津、精華、管南)、に過ぎなかつたから其の概觀素

より充分とはいへない。(出来ることならば、一寸づいても總ての園を拜見し度かつたのが、何分短期間のことにて出来なかつたのは今回參觀の機會を得なかつた幼稚園の諒承を乞はなければならぬ。)

○一週間の所感の最大なるものは、大阪の幼稚園が、今やその熱心なる努力を何か新しい方向に向くもの機運に熟しつゝあると思つたことである。午前の參觀と、午後の會場と、及び旅宿を訪れて下さつた多數の方々のお話で、何よりも感じたのは大阪の保母諸君が實に問題に富んで居らるゝことであつた。換言すれば實によく考へながら日々の保育をして居らるゝ人の多いといふことであつた。かれて大阪の保育界を觀て、各幼稚園の建物の立派なのに感心する人が多い。しかし余はそれには少しも感心しなかつた。寧ろ餘りに「立派」で呆れたこともあつた位である。また大阪の幼稚園教育は他とは飛び離れた程進歩完成して居るといふ噂を聞いて居たが、有體にいへばそれ程にも驚かなかつた。たゞ驚き感じたのは保母諸君がよく考へて居らるゝといふことであつた。

○考へたからとて間違のない完全なことが直ぐ實現せらるゝといふ譯ではない。しかし考へることがやがて新しい進歩をも完成をも生むのである。實際大阪の保母諸君は、考へて考へて考へて、古いまゝではあきたらぬ不満足が、正に其究極にまで達して居るのであるまいかと思つた。斯くして進んでゆく大阪の保育界は此の熱心なる努力のつゞき限り、則ちどこ迄進歩し、どこ迄完成するか測られない。之れは考へない保育界には得て期待すべからざる樂しき希望なのである。

○出来る出来ないは複雑な事實上の相談である。理想と實現との間には屢々容易に超へ難き海峡がある。しかし眞摯なる研究と

熱心なる工夫とは、思ひがけない橋梁を此の海峡に架けて呉れることがある。そして嘗ては吾々の住み難き國と思つて居た理想の島が、案内住むに住み易く居るに居易すき國となることがある。住み古した故國にのみ安居を案あて、新しい世界を嫌ふは、なまけものとするのである。眞摯なる研究と、熱心なる工夫とを棄て、仕舞ふて居るなまげものゝことである。光の多い新しい世界、寶の多い新しい領土は、そういふ人々の手には歸せない。而して比較的未開耕の保育界には此の新世界、新領土が總ての人の目の前に澤山にある。

○『さらば』さらば『わざ／＼お見送り下さつた多くの人々と別れて、汽車が梅田のグラットホームを離れる時ふと余の頭に浮んだ言葉は『大正の幼稚園』といふ言葉であつた。そうして考へた。もの皆著しい年毎の進歩改善をつやけて來たきのふまでに、たゞ一つ幼稚園教育だけは他の教育に比して進歩改善が著しいと謂へなかつた。之れは甚だ残念のことであつた。而して吾々の非常な奮發を要すべきことである。大正元年大阪に開かれた此の幼稚園教育講習會も亦此の新しい奮發の小さい第一着手でなければならぬ。

○終りに、西區保育會長伊佐氏、同副會長青木氏、殊に膳、小久保、上々手三幹事其の他の方々の最も懇なる御接待を厚く々々感謝に堪えないのである。

本誌定價

一冊 郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄
谷八七八倉橋惣三宛

大正元年十月二日印刷
大正元年十月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八

印刷者 平井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイベル會
東京市小石川區久堅町七十四番地